

2016年11月6日

福音書からのメッセージ

神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。すべての人は、神によって生きているからである。

(ルカによる福音書 20 章 38 節)

キリスト教の中で一番理解できないと、多くの人を感じていること。それは復活ということなのかもしれません。わたしたちが想像する復活とは、いわゆる「蘇生」ではないかと思えます。生きている状態と同じ形で、再び生活すること。それを復活と捉えているように思えます。今日の場面では、復活を信じていなかったユダヤ人のグループ、サドカイ派の人たちがイエス様に議論を吹っ掛けます。

サドカイ派の人たちは、当時の結婚の慣習を例に挙げます。二人以上の夫と結婚した人は、復活したときに誰の妻になるのでしょうか、簡単に言えばこういうことです。実は当時の結婚の考え方と現在のそれとは、大きな違いがありました。当時の結婚の一番の目的は、子孫を残すことでした。それには理由があったのです。

自分たちの財産や職業を受け継がせることも一つの理由です。しかしそれ以上に重要なことは、自分の子孫を残すことによって、その子や孫の中にその人自身が生き続けると考えられていたことです。子どもさえ生まれたらたとえ自分が死んだとしても、その子の中で生き続けることができる。だからめとったり、嫁いだりということが、とても大事だったのです。

しかしイエス様は言われます。「この世の子らはめとったり嫁いだりするが、次の世に入って死者の中から復活するのにふさわしいとされた人々は、めとることも嫁ぐこともない」。その人が復活にあずかり生き続けるならば、自分を生かすためだけに子孫を残す必要はなくなります。では一



体、復活とは何でしょうか。

イエス様は言われます。復活とはわたしたちが思っているようなことではないと。わたしたちの想像もつかないような出来事なのだと。

神さまはアブラハムの神であり、イサク

の神であり、ヤコブの神だと言われます。決して過去形ではありません。今も、神さまは天に召された多くの人たちに対して、「わたしはあなたの神である」と言い続けておられます。そしてわたしたちに対して、「わたしはあなたの神である」と宣言してくださるのです。

わたしたちは神さまの宣言により、「わたしとあなた」という関係に入れられます。神によって生きる者とされるのです。それが永遠の命をいただく、すなわち復活にあずかるということです。たとえ肉体が滅んだとしても、神さまの元で、神さまのお守りの内に生き続ける。それがイエス様の約束であり、未来への希望なのです。

わたしたちが神さまからいただく復活、それはわたしたちの想像とはまるで違うでしょう。楽しみです。どのような復活がわたしたちに用意されているのでしょうか。

わたしたちは希望をもって歩んでいきたいと思えます。神さまは必ず、わたしたちをよい方向へ導いてくださいます。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>